

（若狭鯖街道熊川宿資料館（宿場館） 展示説明：熊川宿の誕生）

熊川宿という宿場町の誕生

熊川宿は、日本海沿岸の港と古都奈良・京都との貿易を促進した重要な運輸の中心地として最もよく知られています。しかし、宿場町（宿場）としての歴史は、正式には 16 世紀後半まで始まりませんでした。

あさのながまさ 浅野長政の統治下での発展

1587 年に大名であった浅野長政（1546 年～1611 年）が若狭国の統治者に任命された後、彼は熊川地域の視察を行った。浅野は、若狭街道という交易路と近江国（現在の滋賀県）の国境に近いことから、この小さな村の経済的可能性を見出しました。1589 年、彼は熊川地域からさまざまな税を免除する勅令を発令し、運送代理店や運搬人の事務所、商店、宿泊施設など様々な事業の発展を促しました。

豊かな宿場町へのさらなる発展

熊川宿は、木下氏、京極氏、酒井氏という歴代の領主の支配下で成長を続けました。前川という水路は町全体に拡張され、地域を監督する政府の代表者のために奉行所が建設され、宿場町に出入りする人や物の流れを監視するための番所が設置されました。有利な税制と様々な建設プロジェクトの結果、熊川はわずか数十年の間に、たった 40 世帯の小さな村から 200 世帯以上の繁栄した宿場町へと発展しました。